経営理念	<p>【保育目標】 みつけたよ 自分らしさとおもしろさ しぜんともだち 佐古キッズ</p> <p>【経営目標】 『主体者としての心を育み、自己肯定感や人への信頼感を身につけていく保育の在り方をめざす』</p> <p>〈子ども像〉 健康でたくましい子ども。やさしく思いやりのある子ども。自分で考え話しが聞ける子ども。なかよく協力する子ども。</p> <p>〈保育所像〉 子どもの最善の利益を考慮し、健全な心身の育成のための「子どもにふさわしい生活の場」として、環境を通して養護と教育を一体的に行う保育所</p> <p>保護者の子育てを支援する保育所</p> <p>〈保育士像〉 子どもを見る目を豊かにしよう 子どもの最善の利益に立とう 仲間と創造し協働しよう 保護者と共に育とう育てよう</p>
------	--

中期経営目標	短期経営目標 (評価項目)	自己評価		保育所関係者評価		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
保育・教育活動の充実	一人一人が ○ 自分らしさを発揮しながら遊ぶための環境づくり	① 子どもの興味や関心に応じた教材研究をする	季節に応じた教材研究では、様々な素材や用具の使い方やどのような遊びに適しているかなど職員間で情報共有をしながら積極的に取り組むことができた。子どもたちの遊びのイメージや発想を促したり、興味や関心をもって自ら遊びに取り入れるなど子どもたちが繰り返し試してみようとする姿が増えてきた。	B	・若年保育者と共に、教材研修をする等組織としての研修体制ができています。そのなかで中堅保育者の指導・助言がなされ保育者の資質向上に繋がっている。佐古保育所は園庭や周辺の自然環境に恵まれている。その環境を活かしながら、今後も継続した取り組みの積み重ねを望む。	A	引き続き、教材研究や保育実践に活かせるような研修体制を整えていく。保育の中で使う素材や四季折々の自然物等を意図的に遊びに取り入れる等、職員全体の知識を深めながら取り組んでいく。
	② 子どもの内面や思いを読み取り主体的に遊びに関わるような環境構成について考える	毎月のカリキュラム会や日々の話し合いの中で、子どもの年齢や発達に応じた保育室・園内環境を見直し、環境の再構成を行うことができた。乳児では、一人一人の個人差もあるので用具や遊具の配置に悩むこともあった。子どもたちが遊んで見なくなる、魅力ある環境づくりのためには、カリキュラムのねらいと内容に基づき構成していく事の難しさも感じた。	B	・子どもたちが生き生きと主体性をもち遊ぶ姿が見られている園全体で魅力ある環境づくりがなされており、カリキュラム会で話し合われたことがしっかりと実践されている。	A	今後も、子どもたちの主体性が発揮され、子どもの興味や関心に応じた環境を構成できるようにカリキュラムマネジメントが活かせるように保育を実践していく。	
	③ 自分の思いを表現し、相手の思いにも関心をもち関わるような援助をする	それぞれの年齢に応じた関わりの中で、一人一人の子どもに丁寧に寄り添い、向き合う事を意識し実践してきた。乳児では、愛着関係が築けると子どもたちは、身振り手振り、喃語等で自分の思いを表現していた。また、幼児では子ども同士の関係性や一人一人の育ちを把握しながら関わることで、友達同士のいざこざも見られるが自分なりに相手にも思いを伝えたり聞こうとする姿が増えてきた。	B		B	乳幼児期に人とかかわる力の基礎が育っていくことを意識しながら、日々の保育の中で一人一人の思いを受け止め、子どもにとっての”思いを伝え通じ合う喜び”が積み重なるよう援助していく。カリキュラムの中にも育ちに合った援助を記載して取り組む。	
職員の育成・資質向上や運営	○ 共通課題に向かう職員の協力体制作り	① クラスに関わる職員と、保育を伝え合い保育が繋がるための引継ぎ(報告・連絡・相談)	早朝・延長担当職員を含め、保育の『ねらい』や『子どもへの関わりで大切にしている事』『子どもの姿』等を共有することで、子どもの変化や成長を感じる事ができた。その中で同じ方向性をもち子ども理解に努める事ができた。伝え忘れや聞いてないことがあれば、自ら情報を聞いたり、共有ノートを活用する等伝え合う事を意識し取り組むことができた。	A	・クラスに関わる職員への伝え合いや共有ノートを活用するなど、様々な工夫をし組織として協力し合う体制に向けての取り組みを職員が意識して行っていることが結果に繋がったと感じる。	A	引き続き伝え合いが確実となるように全員が意識して取り組んでいく。知らせて共有できたことが子ども理解や保護者対応に活かせるよう、クラスの共有ノートを活用していく。
	② 職務内容の見直しを図り、生き生きと働ける職場環境づくりに取り組む	各学年団の職員同士、互いに声を掛け合い、仕事の進捗状況を確認しながら業務を遂行することができた。定期的に学年別の話し合いの時間を決めて効率化を図ることもできた。事務を計画的に行うことで見通しをもって実践しようとする職員が増えてきた。	B	・職員同士が互いに協働し合う雰囲気や職場の風土ができつつあることは成果である。今後もワークバランスを大切に業務にあたってほしい。	B	職員一人一人が生き生きと働ける環境を整え、事務仕事の効率化を考え、職員一人一人が計画的に実践できるように、今後とも引き続き取り組んでいく。	
地域に開かれた園づくり	○ 保育者や地域に親しまれる保育所	① 保護者への子どもの姿や保育内容の説明	クラス便り以外に、写真付きのミニ便りを週に1～2回ほど作成し連絡帳に貼付けることで、保育所での様子を分かりやすく伝える工夫をしてきた。保護者からも、連絡帳や口頭での感想や返信が寄せられ、子どもの成長を保護者と共に喜び合うことができた。	B	・ミニ便りや写真をもちいて、保育の様子を伝える取り組みを職員が自分たちで考え、実践したことは良かった。今後も、保護者や地域の人たちに佐古保育所の取り組みを発信していくことに期待する。	B	保護者の安心や職員の保育の質の向上に繋がるように、伝わりやすい内容を考え、園全体で継続して取り組んでいく。個別の伝え方についても一人一人の保護者に応じた伝え方を考え実践していく。
	② 信頼関係を元に子育てに関する保護者への支援	日々、保護者へ積極的に声をかける事を心掛け、保護者が話しやすい雰囲気配慮し、子育てをねぎらいながら悩みに共感することを大切にできた。普段会えない保護者とも、状況に応じて面談や電話などで思いが繋がるように保護者支援を実践してきた。十分に関われなかった保護者もいたため課題もあった。	B		B	保護者の子育ての不安、悩みなどに必要に応じて相談できる場を作っていく。またクラス担任だけでなく、管理職や職員が協力しながら様々なケースに対して早い対応を行い、保護者の安心に繋がるよう努力する。	